



しずくいし地球元気村のキャンプ教室で、ブランコを楽しむ子どもたち

冒険家風間さんと交流

しずくいし地球元気村

町内家族に移住ツアー者も

雫石自然体験イベント実行委員会(三浦明夫委員長)は6日と7日、雫石町長山小松倉の網張温泉キャンプ場で「しずくいし地球元気村」を開いた。町内から家族連れ約20人が参加し、冒険家で地球元気村代表の風間深志さんと自然の中で交流を体感した。午後からは、子どもたちは、三浦委員長らが用意した虫捕り網でキャンプ場に

飛ばすトンボを追い駆けた。場内の樹木に作ったロープと木のブランコで遊び、疲れて眠る子どももいた。

三浦委員長は「自分たちはきっかけを与えただけ。子どもたちは創造力がすごい。自分で発見したこと、遊びを作っていくと見守った。途中で合流した移住

体験促進ツアーは今回で3回目。1泊2日で夏の雫石を体験。参加者は、地球元気村参加の子どもたちと一緒に伝統の「重つこ料理」やひつつみ汁などを堪能した。

コミュニティライフしずくいしの関由美子しずくいし移住促進センター長は「回数を重ねることに問い合わせが増えている。(希望者は)実際に現地に來ること移住の候補地にする。2日間のツアーには、雫石の魅力が詰まっているので楽しんでほしい」と手応えを感じていた。

同町は移住促進の一環として、同町沼返の町有地14畝を活用した日本版CCRCを進めている。2日には深谷政光町長と役場職員が、新たに町有地内に整備予定の町道など現地を視察。資料だけでは分かりにくい建物と周りの景観など、コストを抑えて整備するための具体案を実際に歩いて確認している。

千葉県千葉市からツカでいい。何より涼しい。住む場所として良えながら、いろいろと太郎さん(44)は「静い町だと思ひ、自分の見たい」と期待した。